

## 別紙標準様式（第7条関係）

## 会議録

会議の名称	平成24年度第1回枚方市環境審議会 地球温暖化対策実行計画検討部会
開催日時	平成24年5月24日（木） 11時45分から12時45分まで
開催場所	枚方市民会館3階 第3会議室
出席者	（部会長）三輪委員 （副部会長）増田委員 （委員）稲森委員、今田委員、田中久雄委員、野田委員、丸井委員、水内委員 （オブザーバー）浅野会長
欠席者	田中みさ子委員、水丸委員
案件名	1. 部会長及び副部会長の選任について 2. 施策の検討について 3. その他
提出された資料等の名称	資料1 地球温暖化防止に向けた対策・施策の整理 資料2 これまでの地球温暖化防止に向けた取り組み 資料3 地球温暖化対策実行計画の策定に向けたスケジュール（案） 附属資料1 枚方市環境審議会地球温暖化対策実行計画検討部会委員名簿
決定事項	・部会長、副部会長を選任した。 ・部会の会議録は発言者が明確に特定されないように配慮し、公表する。 ・施策・事業について審議した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	1人
所管部署 （事務局）	環境保全部 環境総務課

## 審 議 内 容

### <開 会>

事務局： ただ今より、平成24年度第1回枚方市環境審議会地球温暖化対策実行計画検討部会を開催いたします。

本日の出席委員数は8名で、枚方市環境審議会規則第4条第2項の規定に基づきまして、本部会が成立していることをご報告申し上げます。本日は、浅野会長にもご出席いただいております。また、本日の傍聴者は1名です。

次に、資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

### <案 件>

事務局： 現時点におきましては、部会委員就任後、初めての審議会でありまして、部会長、副部会長が不在の状況にありますので、部会長、副部会長の選任をお願いしたいと思います。昨年度に引き続き、三輪委員に部会長を、また増田委員に副部会長をお願いしたいと思いますと考えておりますが、皆さまいかがでしょうか。

各委員： (了承)

事務局： ありがとうございます。それでは、部会長には三輪委員、副部会長には増田委員にご就任をお願いいたします。三輪部会長、増田副部会長には、お手数ですが、部会長、副部会長の席にお移りいただきますよう、よろしく申し上げます。

(会長、副部会長移動)

事務局： それでは、三輪部会長から、ごあいさつをお願いしたいと思います。

部会長： ご選任いただきましてありがとうございます。これからも引き続きよろしくをお願いいたします。

先ほどの本審議会でも、大事なたくさんのお意見が出てきました。そういうことも含めながら、本審議会でも「なるほど」と納得していただけるような部会報告にさせていただきたいと思っておりますので、皆さまお力添えをよろしくお願いいたします。

それでは、まず、部会の会議録の取り扱いにつきまして、お諮りしたいと思います。昨年度のように、より活発な議論を行うために、発言者が明確に特定されないような形でホームページなどにおいて公表する、こういうことを事務局では考えておられるのですが、従来どおり、そのままでもよろしいでしょうか。

各委員： (了承)

部会長： それでは、そのようにお願いいたします。  
それでは、資料にございますように、施策の検討につきましてご議論いただきたいと思います。事務局からご説明をお願いいたします。

事務局： (資料1、2、3について説明。)

部会長： ありがとうございます。ご説明がありました通り、かなり回数が限られた中での検討になってまいります。そのことを踏まえまして、何かご意見がございましたら、よろしくをお願いいたします。先ほどの審議会でも活発なご意見がありましたので、そういうことも鑑みて、ご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員： 市民から意見を聞く会についての詳細を、この部会で検討することになるのでしょうか。市としては、どのように考えているのでしょうか。

事務局： 例えば、ワークショップ形式で、市民ができる地球温暖化対策は何があるかといったような、市民の皆さまが自らやっておられるようなことを議論していただき、他に何ができるのかといったことを出し合っていただけのような場を設けることができたらと考えております。

委員： 第2次環境基本計画を策定する際も、同じように市民からご意見をいただく場を設けましたが、それと同じように、資料などを参加者に提示されるのでしょうか。

事務局： 何か議論のたたき台になるようなものが必要かとは思いますが、今までご検討をいただいている中で、確定したものはまだございませんので、例えば、これまでの会議でお示ししているような資料をご覧になっていただき、生の声を直接聞かせていただくことも考えられます。

委員： 前回の部会で、市民から意見を聞く会を開催するという意見が部会から出ていまして、非常にいいことだとは思いますが、どのような人が集まるのかで全然違います。

委員： 参加者は一般公募ですか。

事務局： 広報ひらかたなどで一般公募はしますが、NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議の会員の皆さまにも参加していただくことを考えております。

副部会長： 意識の強い人たちには結構浸透しやすいんですけど、意識の弱い人たちに浸透させる方法として、例えば、今日市民会館で映画会を実施していましたよね。そういうときに、もしアンケートを実施できれば最高なんですけど。パンフレットを配って意識を上げるとか、浸透していくような方法を考えていかないといけないと思います。  
皆さんに身近な暑気対策の取り組みから始めていただいて、あなたたちの健康のことも考えて、地球温暖化対策の取り組みをしませんかということ。例えば、暑い日に映画館に来るのは、家庭の省エネになりますよね。そういうことも含めて、ここに来ていることが、省エネになっ

ているんだよというところがわかるようなアンケートができたらいいなと思います。

部会長： 個人的には、計画のあらましができ上がってきた段階で、市民から何も聞かないで、計画を策定してしまうのはまずいなと感じています。通常でしたら、パブリックコメントを実施しますが、ほとんど市民からの意見がないのが実情でして、そのことを考えた場合、もう少し突っ込んだご意見がいただける場があればいいなとは思っています。

委員： 先ほどは、資料が部会としてまとまっていないので、とりあえずこれまでの資料を説明してということだったと思いますが。

事務局： 他に何も提示する資料がなければ、参考として、これまでの資料をお示しすることによって、地球温暖化防止に向けた取り組みについて考えてみませんかという投げかけになるのではないかと考えています。

委員： このことについて、この場でもう一度議論するのでしょうか。

事務局： もちろん、議論していただくことになります。市民から意見を聞く会は、市が直接市民から意見を聞くというよりも、検討部会が開催するような趣旨・位置付けになりますので。

委員： ある程度まとまった段階を考えると、7月に意見を聞くというのは、ちょっとどうなのかなと思います。

部会長： 確かに、日程的にはかなり厳しいですね。

事務局： 計画の素案に対するパブリックコメントは、11月から12月にかけて実施することになるのですが、今回は部会報告をまとめるにあたって、市民の生の声を聞きたいという話が部会でありましたので、7月ごろになったと理解をしていたのですが。

委員： 施策などを決める前に、地球温暖化について市民の方がどういうふうに思っているのか、そして何をしていく必要があると感じているのかということ、ワークショップのような形式で、自由に意見を出し合って、そのことも踏まえて、今後議論をしていくようなイメージを持っていました。ですから、趣旨を考えた場合、このくらいの時期に開催しないと、なかなかその説明がしきれないのかなと思います。

事務局： 7月の段階で市民にお示しできる資料としては、アンケート結果も考えられます。市民や事業者の意見を題材にして、議論を深めていくという方法もあるのかなと思います。

部会長： 先ほどの審議会でも、まさにアンケート結果をどのようにして届けていくのかという課題があったと思います。これにつきましては、もう一度事務局と相談させていただいた方が、話が進みやすいかと思いますが、よろしいでしょうか。

委員： 市民から意見を聞く取り組みはした方がいいと思いますし、必要ではないかと思うんですけど、日にちが非常にタイトなのが、すごく心配です。

今日が5月24日ですので、7月中にやるとなると、早々に部会の中で検討をしていかないといけないと思いますが、その辺がどうなのでしょう  
か。

部会長： 市民の方に参加してくださいと呼びかけをするだけでも非常に時間がかかりますので、それは重要な要素ですね。

事務局： 市民の皆さまへの呼びかけは、広報ひらかた7月号で行う予定です。その他にも、7月7日の「七夕キャンドルの夕べ」というイベントを通じて、ボランティアへの声かけなど、可能な範囲でお知らせすることも考えています。それから、先ほど言いましたようにNPO法人ひらかた環境ネットワーク会議の事務局を通じて、会員の皆さまに声をかけていただくことによって、参加者を集めていきたいと思っています。6月に検討部会がもう一度ありますので、それまでにご意見を事務局まで寄せていただいても結構ですし、最終的には次回の検討部会までに部会長と相談させていただきながら、ある程度の案をまとめていきたいと思っています。できれば、次回の検討部会の前に、案をメールで送らせてもらってから、ご意見をいただけたらと思います。

部会長： それでは、そういう方向で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員： (了承)

部会長： 他はいかがでしょうか。

副部会長： 枚方市の地域特性があまり活かされていないのではないかなというのが、ちょっと気になっています。枚方市は東が高く、西が低いといった地形的な特徴があり、大きな河川が3つあります。また、気温も暑い場所と涼しい場所に分けることができますので、夜の冷気を取り入れることができるかもしれません。実は、枚方市の30度以上と35度以上の日数は大阪市よりも多くて、そこが特徴になっていると思います。

この対策の中に、暑気対策というのがありますが、例えば、枚方市には高齢者の方も多いと思われまので、熱中症になって亡くなる人を避けるための対策を適用策として取り込んだ方がいいかなと思います。それで人の命を助けることができるのなら、地球温暖化対策というよりも、すごくいいのではないかなと思います。

住宅の中の気温分布は、一戸建てと集合住宅ではかなり違いまして、集合住宅は窓を開けておけばエネルギーの節約にもなりますし、実際に窓を全部閉めてエアコンなどを使用したときには、かなりエネルギー使用量が節減できることがわかってきました。それに対して、一戸建てでは、帰宅してエアコンをつけると、使用電力が一気に上がるんですね。だけど、はじめに1階をエアコンで冷やしてから、2階でエアコンをつけると、それほど大きく上がらないんです。このように、住宅のエアコンの使い

方も違ってきます。

今年の夏の節電で、死んでしまったら意味がないですので、やはり健康は人間としての影響が大きくて、一番受け入れやすいところだと思います。だから、使用電力のピーク時に節電をお願いするだけではなく、こういうところに来て昼間を過ごしておけば熱中症にもならないよとか、どこにいるのが一番いいのかというところまで、施策の中に入れてあげたらいいと思います。

枚方市は熱帯夜の日数もだんだん増えてきて、以前はすごい差があったんですが、大阪市の半分ぐらいになってきています。だから、その辺のところも含めて、「みんなで健康でいましょうね」みたいな、そういったところを計画に入れてPRしてくれたらいいなと思います。

会長： 今の意見に賛成です。そういう具体的なものを入れていくことが、この部会に必要なことかなと思います。一つ意見を付け加えさせていただくと、日の温度変化で、枚方市はものすごく特徴がありますよね。

副部会長： そうですね。

会長： 枚方市には大阪市のヒートアイランドの空気が漂ってきて、気圧配置によって違いますけど、その空気が留ります。それを緩和してくれるのは、実は東部の里山なんです。だから、そういう東部の里山をいかに増やして、夜の間に空気を循環していくのが大事なことです。

そして、昼間のお年寄りや抵抗の弱い赤ちゃんに、冷房の効いた部屋以外に、こういうところは涼しい、ここに日陰がありますよという暑気対策地図みたいなものを市民に提供するという事は、素晴らしい提案だと思います。

副部会長： 枚方市の特徴が、すごく出ている施策ではないかなと思います。

会長： そういうことに関わっていますので、ぜひやっていただきたいと思います。

事務局： 実は、今年の夏に節電対策と合わせて計画をしていることがあります。例えば、水辺や噴水のある公園などの紹介や公共施設を避暑空間として市民の皆さんに開放することにしています。また、昼間のプールを利用しやすくすることなども現在検討しています。このようないくつかの施策を組み合わせた形で、お年寄りや赤ちゃんを連れのお母さんなどに今年の夏は「節電してください」とお願いする予定です。

会長： できれば、市民が直接温度を見られるように温度計を設置するようになっています。霧を散布できるような設備もあればいいのですが。

副部会長： 地球温暖化対策にも取り組まないといけないけれども、実際にもう暑くなっているので、適応していくことも大事だと思います。それに、どうやって健康で生活できるかということも非常に重要なことだと思いま

<p>部会長：</p>	<p>す。        ありがとうございます。本日、配付している資料の中で、「実行計画（区域施策編）の構成（案）」という非常に堅い名前が書いてありますが、いわゆる既製服を着るのではなくて、オーダーメイドの枚方市ならではの表現がたくさんちりばめられた計画になって欲しいなと思います。</p>
<p>委員：</p>	<p>先ほどの本会議でも、東部の里山のことをおっしゃられていましたが、事業者アンケートで企業が活動していると回答している場所は、おそらく枚方の里山ではないと思います。枚方市の企業さんは、やはり地元の里山を保全する活動にもっと積極的に取り組んで欲しいと思います。実際、私も、東部の里山で里山保全活動をずっとやっているんですが、とにかく人手が足りない状況です。        資料にも書いてあったように、竹林が放置されていて、雑木林が竹林に変わりつつある現状を何とか食い止めないといけないということがあります。それと、ナラ枯れがものすごく進んでいまして、やはり企業さんから、月に1回でもいいから、20人くらい来てくださって、人海戦術で作業を進めていただけると、かなりの範囲をカバーできていくと思います。枚方市の企業と東部の里山、これも枚方市の大きな特徴であると言えると思うので、それが、もっと有機的に結び付くようなことを盛り込んでいただきたいと思います。</p>
<p>部会長：</p>	<p>東部の里山については、枚方市の特徴として非常に大きいということで、そこを計画に書き込んでいく必要があるのではないかとということでした。他はいかがでしょうか。</p>
<p>会長：</p>	<p>私も里山保全に関わっています。そして「森づくり委員会」というものを組織していて、その中にはもちろん市も入っているんですけど、その部署の人たちと、ここにいらっしゃる部署の人はつながっていないわけです。つながっていないという言い方は違うかもしれませんが、常にパイプを持って、「それはどうしているの、こうしているの」という話し合いをされているようには思えないんですね。だから、そういうことが有機的につながっていったらいいなと思います。</p>
<p>部会長：</p>	<p>本来は、実行計画ではなくて、計画実行が大事で、その計画実行にはソフト部分の仕組みづくりが、すごく大切だと思います。ですから、関係諸団体がCO2に配慮して、もう一度森を見直すとかといった行動を連携することができたらと思います。</p>
<p>副部会長：</p>	<p>先ほどの審議会での交通渋滞もそうですね。国土計画とかで道路の整備がされたり、通行するルートが一方通行になったりすれば、渋滞の緩和とか、いろいろあると思います。今、京阪本線の連続立体交差化も計画されていますが、いつのことかというぐらい先の話じゃないですか。</p>

だから、そういういろいろなことに取り組んでいるんですけど、どこかと連携してやらないと、簡単に交通渋滞の緩和はなかなかできないかなと、さっき感じました。

事務局： 計画を策定するにあたっては、庁内にも同じような部会をつくってまして、里山振興課などがその部会のメンバーに入っていますので、いまご意見をいただいたようなことは、その中で、可能な限り連携を図りながら検討していきたいと思います。

部会長： 国土交通省の方では、この道路を整備したら、交通渋滞はどれだけ緩和して、その結果CO<sub>2</sub>はどれくらいの削減になりましたというデータを持っておられるのですかね。

委員： この前、淡路島に第二京阪を通って行ったら、本当に渋滞の緩和になっていると実感しました。渋滞緩和のデータを持っておられるのであれば、もっと早く出して欲しいと思います。というのは、第二名神を整備するということですが、八幡市と高槻市までの区間は、まだ先になるということで、枚方市民としたら、一番肝心の利用できるところが何でできないのかと思ってしまいます。テレビで、第二京阪を整備したけれども、交通渋滞の緩和はされていないというような発言がされていたのを思い出しました。第二京阪は、側道がものすごく便利だと言われていすので、そんなに便利で交通渋滞が起こらないなら整備したらいいのと思います。

部会長： 定量的な評価は、非常に難しいかもしれませんね。

委員： 市が出したら、かなりインパクトがありますよね。

委員： 本審議会で、国道1号は確かに緩和されたという話でしたが、東部は、渋滞がひどくて家から出られない状況になっています。

会長： 東部は慢性的に渋滞していますね。特に杉辺りから。

委員： 第二京阪が開通してから、立体交差の出口のところに向けてできる渋滞がすごくひどくなりました。上の道路から降りてくる道路と交差点が重なるので、それも、2本が1本になって、その1本のところに交差点がありますので、当然渋滞します。そこにきて、松井山手に大型のスーパーができたりして、土曜、日曜なんかは、あの辺がずっと渋滞した状態になります。

副部会長： カーシェアリングとか、何かそういうことを思い切って考えるしかなくなってきますね。

委員： でも、渋滞のことは、どう評価するかというのが難しい問題だと思います。普段の交通量を見ると、確かに緩和されています。いま言われた東部の渋滞についても、季節的なこと、それから時間的なことで、確かにある条件下では非常に渋滞するんですけども、それ以外は、そんなに渋滞は起こっていないというのが現実です。それをトータルで見て、ど

れだけの渋滞緩和がされたかという評価をしようと思うと、非常に難しいと思います。

会長： それぞれの地域に格差があって、いま言われた、全体としてどうなっているかという評価が必要になると思います。

委員： 交通問題、特に高速道路の関係については、非常にナイーブな面があるんですね。ここで間違えてはいけないのは、本来の目的は自動車交通を減らすことです。高速道路ができたから渋滞がなくなって、CO<sub>2</sub>が削減されてきたというような論調で、議論するというのは本末転倒かなと思っています。交通渋滞によって、どれだけCO<sub>2</sub>が排出されていて、それが緩和されることで、どれだけCO<sub>2</sub>が減るかという数値的なものが出るのなら、参考資料になると思います。高速道路を整備することによって、有効な面もありますが、自動車の量が増えるのは、高度成長期の話ではないので、そこら辺の扱い方は非常に気を付けないといけないと思います。

委員： 公共交通の利用が減少していますので、私たちがいくら公共交通を利用しましょうと運動を展開しても、なかなか公共交通の利用拡大にはなりません。現状を踏まえて、次の段階としていかにマイカーを使うのかという話はとんでもないところで、いかにそういう状況の中でCO<sub>2</sub>を減らしていくかということを考えていかなければならないと思います。

部会長： 例えば、交通渋滞がたくさん起こる場所をアイドリングストップ地域として指定したり、標識を立てて、ここではアイドリングストップをしてくださいとかの対策はできるかもしれませんが。先ほどおっしゃられたように、高速道路を整備して、もっと自動車で走りましょうとかは、ちょっとおかしいと思います。ただ、交通渋滞は、今まで、この場で一つも議論がされていないというのが実情ですので、その扱いなども含めて、検討しなければと思います。

私は、ここで退席させていただきますので、今後の議事は副部会長にお願いしたいと思います。それでは、よろしく願いいたします。

副部会長： では、今後の施策についてのご意見をお願いします。取り込めるものは取り込んで、こんなことは無理だなというのもありますので、上手に調整しながら進めていくしかないのかなと思います。

委員： 先ほど、東部の里山や交通渋滞の話がありましたが、これだけやったら、これだけになるといった効果を数値として出していくことは極めて難しいと思いますので、光りものみたいに、これだけはというものを取り上げていったらどうかなと思います。

副部会長： どれがポイントで、どれが重点的な項目かは、言いにくいんですけど、やはり色付けをしながら、どこに持っていくのかを考えていかないといけないと思います。

基本的には、地球温暖化対策を進めれば、他の施策にもつながっていくところがありますので、そこが大きなメリットだと思うんです。先ほどの交通渋滞にしても、地球温暖化対策として取り組めば、他の部門でも、かなりいい方向に動くということがあります。

それと、森林の定量化は非常に難しい問題ですが、森林が消えていっていることが一番気になっているところです。

委員： その定量化というとき、例えば里山に関しては、会議を1年間に5回するというのも、ある意味での定量化です。

副部長： 森林に人が入って間伐したという取り組みも定量化になりますね。

委員： 何回行きましたとか、何人行きましたとかね。

会長： 里山が、いま竹でやられ続けています。仮に、その竹を減らして、ブナ科の植物を植えるということをするれば、面積や本数を数えれば、CO2削減にどれだけつながるかという量はわかります。

それから、木と動物は影響し合っていて、それも木の種類によって違います。そのことが、実は枚方市の空気の循環、水の循環と関連しているということをできるだけ具体的な量でもって市民に伝えることができればいいのですが。

委員： カーボン量がどうなっているかより、地域に密着した具体的なことを定量化するようなことを言えばいいと思います。

会長： 枚方市民の快適な生き方を求めて。

副部長： そうですね。

会長： 副部長がおっしゃられたように、「快適な生き方を求めて」みたいな副題があって、それに具体的な取り組みをまとめていけば、すごくいい提案になるのではないのでしょうか。

副部長： 他にございませんでしょうか。森林は生物多様性とも関わっていますので、枚方市は起伏もあって比較的森林がある裕福なところだとは思いますが、だから、その辺のことも含めて考えると、完全に地球温暖化対策ではなくて、多くの対策が全部つながっていると思います。

委員の皆さんの手元にあるこの資料をどうやって、次の部会までに考えてきてもらうかというところを先に発言してもらった方がいいと思うんですが。あと部会は3回しかありませんので、これから詰めていくのは非常に大変なんですけど、次回に向けた資料づくりというところも含めて、こういうのに訂正して欲しいとか、何かご意見はありませんでしょうか。

例えば、「地球温暖化による影響は拡大していると思いますか」というアンケート結果のグラフを枚方市駅に1週間貼り出して、「こんなにみんな思っているのか」と思わせて、また1週間たったら次の設問のアンケート結果をぼんと貼ってというようなことをするといいかなと思

ます。ちょっとしたアイデアですけど、人を待っているときとか、暇なときに見てもらえたらいいかなと。

事務局： いいアイデアだとは思いますが、なかなか枚方市駅に貼るのは難しいのが現状です。

会長： そういうのこそ、NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議が京阪電車と一体となって、やっていけないのでしょうか。

委員： 実は、枚方市駅の下南北をつないでいる中央の通路があるじゃないですか。あそこの柱は、普段は枚方八景の写真や絵が貼ってあるのをご存じですか。そこでしたら、「環境に負荷をかけない公共交通を利用しましょう」というようなキャンペーン関係のものを貼ったことはあります。そこは枚方市の管轄なので、貼れたのですが。

事務局： そこは道路ですので、交通関係のものは貼ることができます。

副部長： 人が通るところに、ぱっと貼るだけで「何かな」って思ってもらえたらいいですね。

会長： 枚方市駅にアンケート結果を貼るというアイデアはすごくいい案だと思いますが、何とかならないのでしょうか。

事務局： お金を払ったら、貼ることは可能だと聞いています。

会長： 企業はお金を払って貼っているのに、枚方市だけは特別扱いは難しいということなんですか。

委員： 京阪電車というよりは、広告会社が決まっているからだと思います。

委員： 京阪電車の車内に吊り広告がありますよね。

委員： 吊り広告を全部するとしたら、すごくお金がかかるんです。

委員： 企業は不況だから難しいので、枚方市だったら安く貼らせてくれないですかね。企業としたら儲かるとは思いますが。

副部長： 市役所にアンケート結果を貼っても、来る人は限られますよね。でも、1つ目のアンケート結果、2つ目のアンケート結果みたいに出して行って、「地球温暖化対策をやらなあかんと思っている人がこんなにいるんだ」ということを訴えて、「やっぱり私は遅れているな」と思わせることはできると思います。

次回の部会ですが、事務局で施策の内容について整理していただいて、検討していくという形でもよろしいでしょうか。

事務局： 庁内でも施策の内容について検討していますので、整理したものを次回の部会でお見せしたいと考えています。

委員： 個別のいろいろなアイデア出しだけではなくて、もっとこういうことをやって行って、ここまで目指そうよというのをきっちりと出していく必要があると思います。モデル事業として、そういうものをいくつか出すというのが、以前はできなかったと思います。今回、それをやるなら、考えておかないといけないですし、準備もしないといけないので、

その辺りはどういう作業のアウトプットの構成にするのかということ  
と、すごく関わってくると思います。

会長： 検討しているのは実行計画ですから、おっしゃられている方向だと思います。

委員： 計画実行しないと意味がないですよ。

会長： その通りで、案の羅列では意味がないと思います。

委員： 計画実行ですから、皆さんに実行してもらえるように、かなり踏み込んだところまで考えていかないと。

委員： ロードマップに近いものは、10年後、20年後でも大丈夫かもしれないですが、10年後は環境が変わっているというような理想みたいなものを、言葉等を含めて出せないですかね。先ほどおっしゃられた快適な暮らしとか、健康とかを含めて、その生活イメージを都市の環境像みたいなものと絡めた見せ方ができたらと思います。

会長： その方向性が大事だと思います。枚方市の空には、それが描いてあるみたいに。枚方市民が誇りを持って空を見たら描いてあるというような感じで。

副部会長： この実行計画の中に、盛り込んだ方がいいものとか、逆に、こういうのはもう必要ないんじゃないというようなものがありましたら、次回の部会でもいいですが、それまでに事務局に意見や作成した資料を出してもらっても構いませんので、委員の皆さまよろしくお願いします。

#### <閉 会>

副部会長： それでは、すべての案件が終わって、お時間も来ましたので、本日の部会を閉会いたします。ありがとうございました。